

E S I の次亜塩素酸水パウダー クリアランスαが製法特許取得

ウィズコロナでも不可欠な感染症を防ぐ盾

コロナ禍から3年余りが経過し、脱マスクの動きや5月には新型コロナウイルス感染症の5類移行と、いわゆるウィズコロナ、アフターコロナへの機運醸成が政府の旗振りで加速している。しかし、こうした動きはコロナから身を守る「盾」を手放すこととはイコールではないはず。罹患しても治療が受けられる医療の充実と、罹らないための防疫環境の充実がウィズコロナ=コロナと一緒に暮らす社会には不可欠だ。そうした中、次亜塩素酸水溶液を活用した空間除菌の先駆的企業・E S I（本社札幌市、菊地匡彦社長）に朗報がもたらされた。このほど高純度の同水溶液を簡単に生成できる同社のパウダー「クリアランスα」が国内外初となる製法特許を取得した。次亜塩素酸水溶液の復権と普及に向け期待される「クリアランスα」の実力とは――。



「今回の取得を次亜塩素酸水溶液普及の後押しにしたい」と菊地社長

「クリアランスα」は、コロナ禍最初期から人々を守る盾の役割を担う商品だったと先に触れた。だが次亜塩素酸水溶液の空間除菌について、大手メディアなどが根拠を示さぬまま健康不安を煽り、次亜塩素酸水溶液に携わる業界全体が言われなき風評被害に長く苦しめられた時期があった。その背景には、消毒用アルコールなど多くの消毒剤が品不足となったコロナ禍初期に、コストパフォーマンスの良さなどから注目されるようになった次亜塩素酸水溶液の需要増を良しとしない動きがあったと見られている。

だが、E S I が発起人となって設立した(株)次亜塩素酸水溶液普及促進会議（J F K）、同団体が後ろ盾となって結成した日本除菌連合。これら団体の活動に賛同した超党派の国会議員連盟「コロナ対策を資材と方法から考える会」などによる風評払拭や事実誤認を改める活動が奏功。2021年10月、厚生労働省が次亜塩素酸水溶液に対する正しい認識と、空間噴霧に対する誤った見解を変更する通達を全国都道府県の衛生主管局宛てに発令するに至り、22年9月には厚労省新型コロナウイルス感染症対策推進本部が各衛生主管局に、空間噴霧に対する指導や指示に現場で誤解が起きないための再発信をしている。これらの動きを受け、J F K は粗悪品の一掃を目的とした厳しい審査基準に基づく品質認証制度をスタートさせている。

「コロナ禍では、社会貢献の一環として弊社のクリアランスαなどを札幌市に寄贈し、感謝状を秋元克広市長から頂戴しています。緊急災害時の避難所などでの衛生管理、感染予防に対応するためにも、自治体の皆さんには国も認めた次亜塩素酸水溶液の活用を積極的に考えていただきたい」（同社・菊地社長）

ウィズコロナ社会へ移行してもコロナから身を守る盾の存在は不可欠。その守り手としてのE S I の取り組みに注目していきたい。

ウダー 許取得



製法特許を取得したE S I の「クリアランスα」

手軽にいつでも誰でも作れる高純度の「次亜塩素酸水溶液」

今年1月10日に製法特許（特許第7206459）を取得した、E S I が手掛ける高純度の次亜塩素酸水溶液生成パウダー「クリアランスα」。2020年2月下旬の発売当時は、同年1月15日に国内最初の新型コロナ感染者が確認され、以降、正体不明のウイルス感染症が次々と人々の命を奪い、その病禍や恐怖が蔓延していく始まりの時期だった。「クリアランスα」の発売は、こういった情勢に憂慮し本来の発売時期を前倒ししたものの、いわば同品は、コロナ禍の最初期から感染対策として身を守る盾の役割を担っていた。

今回、製法特許取得に至った同品の特長を簡潔に説明すると、空間の除菌や消臭に適した高純度の次亜塩素酸水溶液を「いつでも、どこでも、だれでも、簡単に作ることができる」というところだろう。パウダーのため持ち運びや保管もしやすく、同社は常温保存で6年間、経時変化が起らないと品質保証している。そんな「クリアランスα」だが、そもそも次亜塩素酸水溶液の一般的な活用法

および、既存製品と「クリアランスα」との違いはどういったところにあるのか。

知られているように次亜塩素酸水溶液はコロナ前から高齢者介護施設や病院、家畜の厩舎、野菜の洗浄などでの感染対策をはじめ防疫の用途で広く使われてきたものだ。ただよく出回っている同水溶液は、液体での販売。長く保管すると水溶液は劣化し、何より液体状なので備蓄するにもかさばるものだった。

そういった課題と全く無縁なのが「クリアランスα」。水溶液生成においても、少量のパウダーから大量の次亜塩素酸水溶液を作ることができ、生成のための専用機材も必要としない。コストパフォーマンスにおいて群を抜いていると言っている。コロナ対策はもとより、次亜塩素酸水溶液の活用が求められるさまざまな場面でも、「クリアランスα」は他に類を見ない高効率で使い勝手が良いと言えそう。現在の次亜塩素酸水溶液の市場規模は、およそ200億円とされているが、今後は1兆円規模に向かっていると見られている。そうした中で「クリアランスα」の優位性を見逃す手はない。